

かほく市図書館 友の会だより

発行日 2017年3月25日

発行者 かほく市図書館友の会

〒929-1173 かほく市遠塚口57-6 かほく市立中央図書館内

第15号



平成29年度も図書館友の会の会員に!

— 継続の手続きをお願いします —

平成28年度の会員は、131名でした。平成26年：117名、平成27年：121名と、少しずつながら会員数が増えています。「かほく市立図書館」の応援団として、これまで応援ボランティアや古本市、図書館見学会、友の会の集い、紙しばいの会例会、「わくわく紙しばいカーニバル」等の活動を展開してきました。これらの催しの運営や参加だけでなく、図書館へ足を運んでいただくことが会員として何よりの活動になります。

131名の方々、なにとぞ会員の継続手続きをお願いします。そして、友人知人をお誘い下さい。

友の会6年目となる平成29年度には、さらにこの会を発展させていきたいと思います。「かほく市立図書館」を応援していきましょう!

【申込方法】

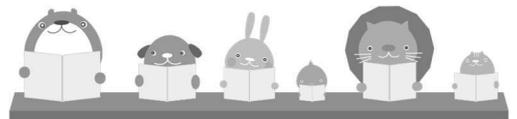
- 受付開始日：3月25日（土）～
- 同封の用紙にご記入の上、会費を添えて図書館・図書室カウンターへ。中央・高松・宇ノ気いずれでも。1口500円。2口以上大歓迎!!
- 友の会会員を通して申し込むこともできます。
- 友の会入会コーナーを、中央図書館に設けます。
4月9日(日) 10:00~15:00
4月16日(日) 10:00~15:00
4月23日(日) 10:00~15:00



第6回 かほく市図書館友の会総会 平成28年5月28日(日) 13:30予定

継続入会された会員の方には、近くになりましたら、ご連絡いたします。ぜひご出席ください。

古本朝市大盛況!!



収益(協力)金 33,800円

義援金 25,000円

宇ノ気・七塚・高松のほか、内灘町・津幡町・金沢市からも集まってくださいました。

お越しくくださった方、ありがとうございました。いつも本をご寄付下さる方々、ありがとうございます。今後とも、よろしく願いいたします。

6月・2月の古本市収益金の中から25,000円を、3月10日(金)に、かほく市役所健康福祉課を通して、東日本大震災義援金として寄付してきました。

残りは、友の会の運営にあてさせていただきます。



大盛況の古本朝市!

第10回 友の会の集い

- ① 中田節子さんのポーランド旅行記より「アウシュビッツで知り得たこと」
- ② 中央図書館係長 小村さんのお話「ボタニカル」

2月5日(日)第10回「友の会の集い」を開催しました。今回も前回と同じ、2部構成でした。

1部では、中田節子さんのポーランド旅行記から、アウシュビッツ強制収容所見学の様子を、写真を交えてお話していただきました。

アウシュビッツ強制収容所は、1979年に「負の世界遺産」として世界遺産リストに登録されました。

ノルウェーでは中学生の宿泊体験として収容所の見学を行っているのに対して、日本ではディズニーランドなどの行楽地へ…この点に大きな違いを感じ、目を背けてはいけないと、旅行に見学ツアーの行程を盛り込まれたそうです。

収容された人の多さに圧倒され、故郷への思いを抱きながら「働けば自由になれる」という言葉を信じ続けた人々のことを思うと、ただただ胸が詰まりました。



中田節子さん



小村和代さん

2部では、図書館司書の資格をお持ちの小村係長に「ボタニカル」(植物の、植物学的な、などの意味)をテーマにお話していただきました。

1部の流れから、姉妹都市であるドイツ・メスキルヒ市を訪れた際に撮影された、花や緑にある街並みの写真紹介で始まりました。悲惨な戦争を経て現代に至り、これほど豊かで平和になったのだなと、あたりまえの日常がとてもありがたいものだと感じました。

続けて、中央図書館の周りの自然環境や、図書館の植物に関する図書の分類、おすすめの本に至るまで、司書ならではの視点でのお話は、とても盛りだくさんで興味深いものばかりでした。

最後に、恒例となりつつある本の朗読で締めくくっていただきました。

快く講師を引き受けてくださったお二方に、心からお礼申し上げます。



参加者の声

集いに参加して

田中 晴康

アウシュビッツ収容所の話聞いて、特に印象的だったのは、靴やカバン、衣類といった当時の品の数の多さでした。文字通り山のように積み上がり今も保管されている品々の写真を見て、本当に多くの人がそこに集まっていたことを強く感じました。

また、収容所で亡くなった人の名前が記された名簿の分厚さも、当時の状況を証明するものとして大きな存在感がありました。

こうした外国での実体験と写真を織り交ぜての話の場は、ドイツに限らず、なかなか外国を訪ねるという機会が難しいので、とても貴重な時間でした。

次回もこのような貴重な話を聞く機会があれば、是非参加したいと思います。

小村さんのボタニカル(植物)のお話を聞いて

澤本 照子

ドイツ・メスキルヒ市訪問、旅のお話から始まり、写してきた写真はお花であふれていた。忙しいながらも、図書館の周りの植物に興味観察と丁寧に映像で説明してください。私も図書館を利用するたび正面側の花壇に目がいく。植物は太陽の光が大好き。こどもも充分日当たりはいいのに、開館して数年植えてある草木はいまいち。一年草が合うのか宿根草がいいのか。

本棚は0~9で分類、植物は4、6、7。専門的でわかりやすい本の紹介、内容の説明に引き込まれ、どれも読みたくなる話し方で、さすがすてきな司書さんです。人はみな、植物などの自然に自然にかかわりながら生きているのだと思う。

また、朗読「すばこ」も楽しく、なるほど心に響いた。ありがとう。

西田幾多郎哲学館 企画展 哲学する本棚 食をレポート

哲学館 B1F ホワイエでは2月1日(水)～3月12日(日)まで、「食」にまつわる6つのテーマに沿った本が50冊展示されていました。

そして、最大の目玉はホワイエに「コタツ」が設置されていること。コタツに暖まりながら本を読み、ほかの人との会話も楽しめるという、およそ哲学館のイメージに似つかわしくないギャップを感じ、ワクワクしながら見学に行きました。

ここ(ホワイエ)で靴を脱いで座ることに若干の抵抗を覚えながらも脱ぎ、コタツに座ると…

天窓から差し込む冬の日差しとすべての音を柔らかく包んだ静かな丸い空間のホワイエ、その中心に設置された暖かなコタツ。ものすごくホッとする空間です。

—哲学館の職員さんにお話を聞きました。

Q. 哲学する本棚の企画はどのような経緯から考えたのですか？

A. 難しく思われがちな哲学をより身近に感じてもらうために学芸課のスタッフが中心となって考えました。考えが偏ってはいけないので、事務室の他のスタッフの意見も聞きながら進めていきました。コタツは予算の心配もあったのですが・・・買ってもらえました。

Q. コタツに対するお客さんの反応は？

A. 赤ちゃんを連れてお母さん達が来ていることもありました。赤ちゃんを横に寝かせて。

またある時は、一人静かに本を読んでいる方もいらっしゃるし若いカップルがコタツに座っていることもあ

ります。来場する方は増えていますね。

Q. 喫茶ではフルーツサンドが期間限定で販売されていますが、これも職員さんが考案したのですか？

A. そうです。今回は食がテーマなので西田幾多郎がパンと果物が好きだったことをヒントにして何かいいものはないかと考えました。そこで、フルーツサンドがいいと思いつき喫茶の方をお願いして作っていただいています。

Q. 喫茶で飲み物を頼むと、ビスケットがついてきますが、この個包装のビスケットに小さく西田幾多郎にまつわることが描かれていますね。

A. これは、西田幾多郎の人となりを知っていただきたいとの思いから、寸心日記などの文献をもとに6パターンの食にまつわるあれこれを抜粋し、貼っています。一つ一つ、職員の手作りです。ビスケットからこだわって選びました。



友の会 談話室

古本市から気付いたこと～本との再会～

かほく市教育部長 虎谷 寛 氏

休日の日課は、野菜づくりと散歩。そして昔ながらの店を見つけて苦めの珈琲を飲むこと。少し時間が出来た私の楽しみである。

昨年春のことである。ふと目にしたのが、友の会の古本市の案内。そういえば、最近本を読まなくなった!!

仕事が忙しいから、読みたい本がないから、図書館や本屋に寄る時間がないから、何かと言い訳をして、仕事以外で活字を読むのは、毎朝の新聞くらい? どれ

くらい本から遠ざかっていただろう。残念ながら、古本市へ行くまでは年に数冊しか本を読んでいなかったと思う。

30代は、十津川警部の生みの親である西村京太郎氏の推理小説を、家でゴロゴロしながらよく読んだものだ。今から思えば、同じジャンルばかりを読み続けていたなあ…。

古本市で本を買ってから、友人と本の話をするようになった。友人から花の話、山の話、好きな小説の話を聞くとワクワクしてくる。

休日にあてもなく本屋へ出かけてみる。友人が話していた本を見つけた。手に取ってみる。買った本を家でゴロゴロしながら読む。とても贅沢で有意義な時間だったんだなあ～と感じる。

こうして、大好きな珈琲を飲みながら本を読むことが、私の休日の日課に加わった。

ありがとう! クリスマスコンサート!!

2016年12月23日(金)、西田幾多郎哲学館で開催されたアンサンブル金沢・弦楽四重奏によるクリスマスコンサートのチケットが、生涯学習課のご厚意により会員全員にプレゼントされました。クリスマス間近の昼下がりのゆったりとしたひととき、すばらしい演奏にうっとりとしてしまいました。



友の会活動予定

●リサイクル本収集

かほく市立中央図書館階段下のリサイクル本入れで常時受け付けています。雑誌は、平成28年以降発行のものに限りOKです。

たくさんありがとうございます!!
今後ともご寄付をよろしくお願いいたします!

やってみたいと思う方は
ボランティアルームまで
おこしてください。



● 応援ボランティア

【開催日時】 ※6月以降の開催日時は、総会で決定します。

■第1・3・5週 14:00~15:30

■第2・4週 10:00~11:30

4月4日(火)、4月18日(火)
5月2日(火)、5月16日(火)、5月30日(火)

4月11日(火)、4月25日(火)
5月9日(火)、5月23日(火)

【作業内容】 本の書架整理、汚れ落とし、修理などを行います。

● 古本朝市

【開催日時】 6月25日(日)、11月、2月25日(日)開催予定

【会場】 かほく市立中央図書館 2階



編集後記

今年の3月は、冬に戻ったのかと思うような吹雪の日があったり、快晴の日があったりとめまぐるしい天気でしたね。そんな中、以前から気になっていた富山・氷見線で運行している観光列車「ベル・モンターニュ・エ・メール」(通称べるもんだ)に乗ってきました。

石川県・富山県の両県にまたがる観光コースをめぐることができる「北陸トライアングルルートきっぷ」を使い、べるもんだの座席指定券を購入。交通費総額3,000円での2日間プチ観光です。両日とも天気に恵まれ、雨晴海岸の向こうに壮大で美しい立山連峰を望むことができました。氷見駅到着後は徒歩でひみ番屋街に向かい、「わくライナー」で七尾駅まで移動。そこでラッキーなことに、のと鉄道の観光列車「のと里山里海号」と遭遇!迷わず空席があるか確認すると、運よく乗車できました。たまには普通列車でトコトコ移動するのもいいなあと、新しい楽しみ方の発見でした。今度、図書館で電車の旅に関する本を探してみようと思います。(M.I)

現在の会員数 131名

入会のお申し込みは、中央図書館サービスカウンターにて随時受け付けております。